



県立がんセンターに入院している小児の家族が泊まる施設「ひまわり」が完成し開所式が行われました。家族が滞在することで患児の情緒不安を解消し、合わせて家族の経済的負担を軽減するもので、こども病院の「コアラの家」に次ぐ施設です。開所式にはほほえみの会からも

<第94回 ほほえみの会>

堀越先生、山下ナース含め8人が参加しました

▽中学1年男の子4月1日に入院、悪性リンパ腫

今年に入って高熱が続いた。小学校の卒業式にも出席したが春休みに検査入院して病気が発覚、こども病院へ。

4人兄弟の3番目。毎日面会で家に帰るのは夜8時過ぎ。それから夕食の支度で親のほうに疲れる。また小学2年の妹も連れてきても面会できないのでジュースを買ってお絵かきをさせている。気になり病室といたり来たりしている。

前回は話題になった兄弟の面会について今回も話題となりました。ボランティアにいてもらえないか？だめならせめて控え室にテレビ、ビデオを置けないだろうか？また本を置くことは出来ないだろうか？本の寄付もしたいがどうだろうか？

医師、ナース内で検討してもらうことにしましたが6月にはボランティアの会の総会があるとのことでそこでもお願いをすることにします。

病気の子の兄弟への影響についても話題となりました。

兄弟には目をかけているつもりでもなかなか目が届かない。友達の靴を隠したり、友達を誘ってゲームに夢中になったり、ほしいものを買いたさったりしたという体験談も出ました。また、祖父母に面倒を見てもらっても祖父母も病気の子が気になってイライラしていたということも。逆に家族の絆が深まったという話も出ました。

▽3歳の女の子。急性リンパ性白血病。官界に入り3回目の治療を迎えたが食欲がない。

親戚の人にドリンクなど民間の治療を進められるがどうして良いか？先生は衛生的には問題がないものだが効果や治療への影響は分からないと言う。

会員からは、親にしてみれば人に良いと言って勧められれば使いたくなるのは当然。体験談からは、あるものを飲ませたら尿の検査値に異常が出た。やめたら元に戻った。使う使わないは親の気持ち次第だろうが、使う場合は医師に報告した上で使うほうがいい。

また、子供に食事制限はなく本人が刺身が好きで食べさせているが控えたほうが良い食べ物はないか、との質問もありました。会員からは治療中は食べられなくなるので食べられる時には何でも食べさせた。エビやカニは普通の人でも蕁麻疹が出ることもあるのでやめたほうが良いかもしれないという話がありました。

入院中の食事についても話題となりました。

食事は栄養は栄養のことを考えて作ってくれているのだろうが野菜などみな残していることが多い。メニューを見ても子どもがすきそうなものがない。学校給食も最近では工夫されているので参考にしてほしい。また、北5病棟(B1)では最近食べ物の持込が禁止されました。元々、病院では持ち込みは禁止されていましたが血液科では治療中食欲がなくなるので母親手作りのものなら食べられるかもしれないとのことで許可してきた。しかし、ケンタッキーやフライドポテトなど栄養上問題のものを食堂でW食べさせるケースも出てきてそれはまずいという事に。

また、新病棟の食堂がプレイルームと同じ部屋になったことでプレイルームが狭くなった。また食事を食べたくない子が、横で遊んでいる子がいたりテレビを見ていたりすると食事に集中できない。さらに部屋に靴のまま入るのも衛生上気になる。といった意見も出ました。

次回は 5月11日(日)11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mail アドレス

klikeda@mx1.s-cnet.ne.jp

ホームページ

<http://homepage3.nifty.com/hohoemi/>